

4-1 OCは「O=C」がすべての誤解の元

——「文の埋め込み」という発想

1 O=Cとなるのは、Cが「名詞」か「形容詞」のときだけ

第5文型 (SVOC) の特徴または判別法として、特に中学の段階で最初にそれが扱われる際、「O=Cの関係が成立する場合は第5文型、そうでなければ第4文型」と教わる人が多いようです。ここでいう「=」(イコール)とは第2文型 (SVC) のSとCの関係と同じです。

これは主として第4文型 (SVOO) との違いを明確にするための指導法ではないかと思われます。ただし、p.084でふれたように、第4文型のO₁O₂を「O₁とO₂はイコールではない」という認識では第4文型の本質がわからないのと同じく、第5文型 (SVOC) もO=Cという考え方では第5文型の正体がわかったとはとても言えません。

もちろん、O=Cとなる場合がないわけではありません。ただし、それはCすなわち補語が名詞または形容詞の場合に限られます。

① 補語が「名詞」の場合

They call Godzilla King of Monsters.
S V O C (名詞)

「彼らはゴジラを『怪獣王』と呼ぶ」

☞ Godzilla is King of Monsters

be動詞isを補うことでO=Cが成立

② 補語が「形容詞」の場合

I'll make you happy. 「君を幸せにするよ」
S V O C (形容詞)

☞ you are happy

be動詞areを補うことでO=Cが成立

しかし、第5文型で補語になるのは名詞、形容詞ばかりではありません。その場合には、このO=C式の考え方ではわからなくなり

ます。別の例で考えてみましょう。

③ I want you to go there. 「君にそこに行ってほしいんだ」
S V O C

この〈want O to do〉の型もSVOCの第5文型と解されますが、この場合のOCの関係はどうでしょうか？ どうみても、you = to go there 「君=行くこと」(?) でないことは明らかです。昔イコールと教わったのに、そうならないことから、第5文型がわからなくなってしまいかねません。繰り返しますが、**O=Cという説明が成り立つのは、C(補語)が「名詞」か「形容詞」の場合だけです。**Cの部分には名詞や形容詞だけではなく、to不定詞/原形不定詞や現在分詞/過去分詞が来ることもあります。

2 もう1つの文が埋め込まれていると考える

O=Cがだめなら、先ほどの例文③のような場合はどのように考えたらいでしょうか？ 詳しくは次項でふれますが、原則として、**第5文型のOCは「もう1つ別の文が埋め込まれている」と考えます。**

I want [you + to go there].
S V O C

→ I want + [you will go there].
S V S' V'

☞ you will go thereという「文」が動詞wantの後ろに「埋め込まれている」と考える

[君がそこに行く] ことを私は欲する → 君にそこに行って欲しい

この考え方は補語が名詞でも形容詞でも成り立ちます。これについても次項でさらに詳しくふれます。

まとめ

□ 第5文型で「O=C」という説明が成り立つのは、Cが「名詞」か「形容詞」の場合のみ

☞ OCは「もう1つの文が埋め込まれている」と考える